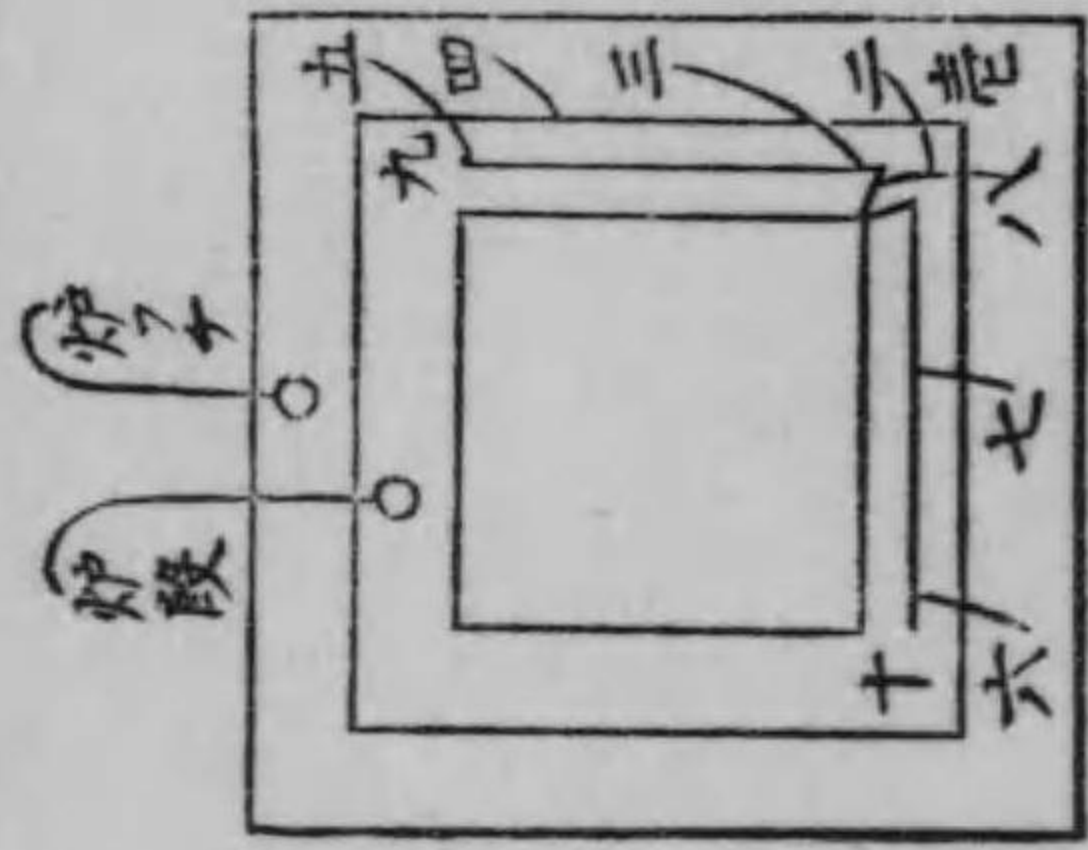


一 爐ふち并に爐段始は如圖はくべし

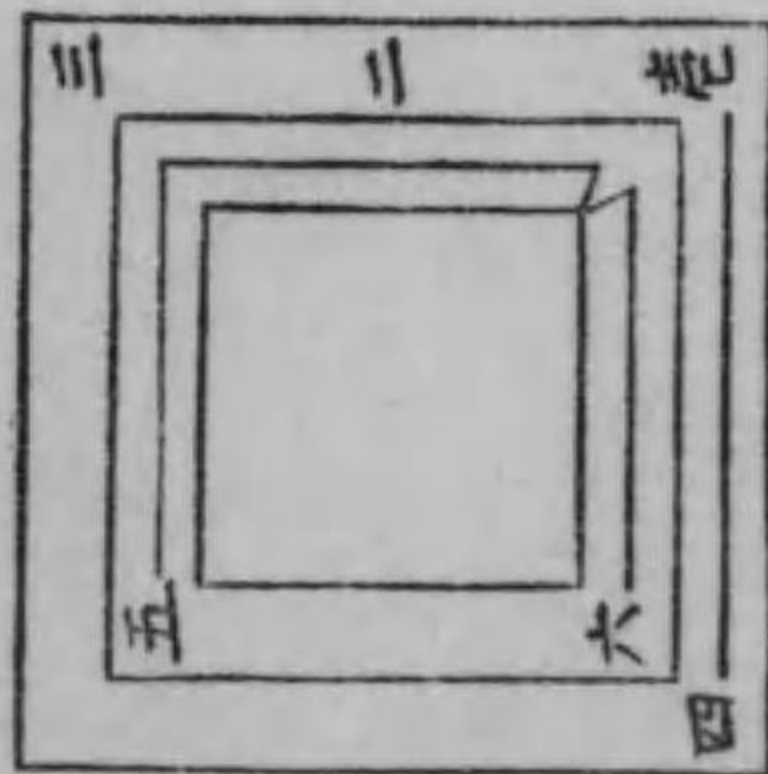


始めはき方圖の如し

二 二度目は略して爐段計はくこと灰仕切瓦の上と五徳に灰かよりたる處丈けはくべし



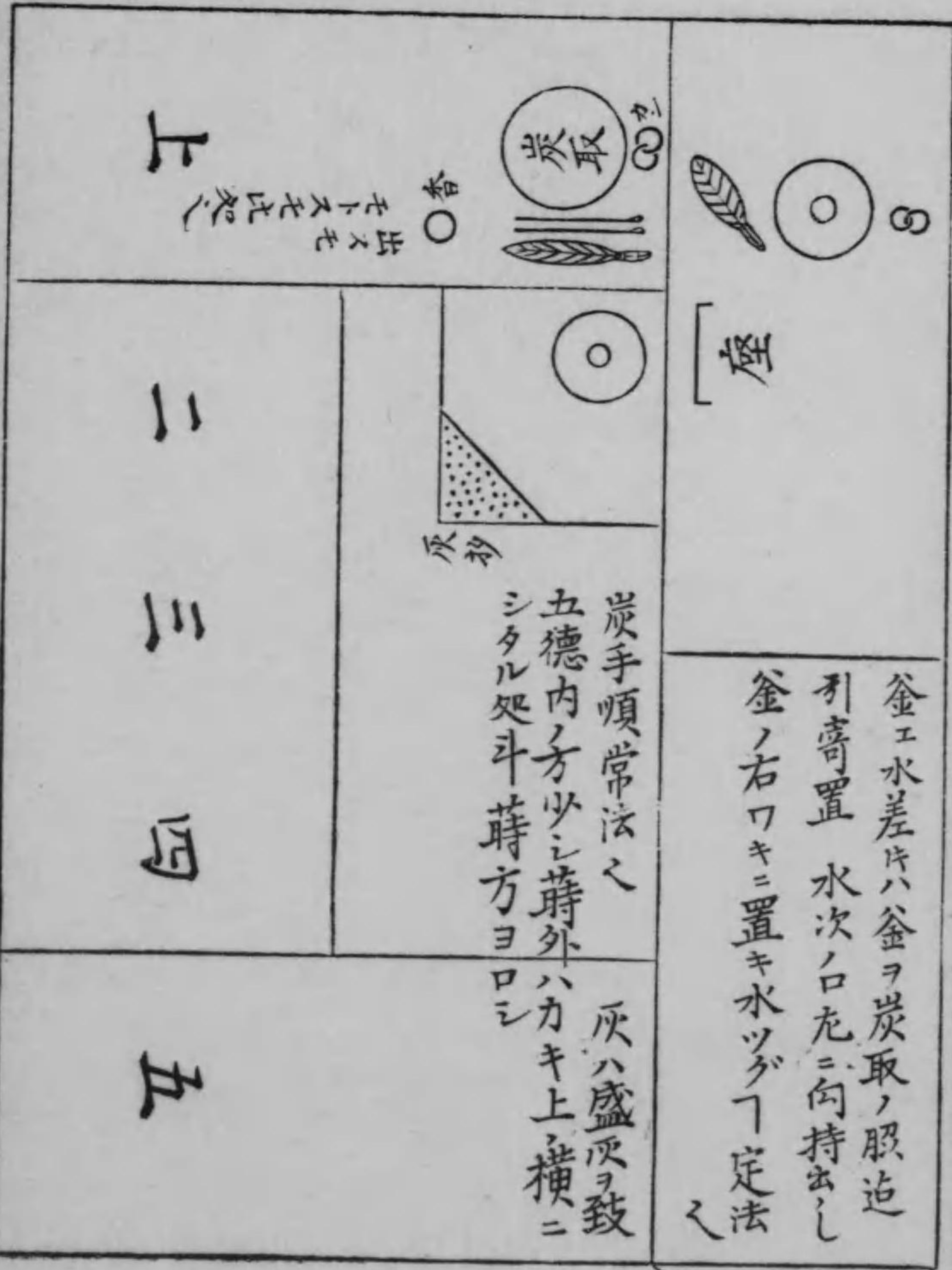
五徳三本ともはくに不及こと



三 三度目は凡如圖

功者により作略有べし

香合初メヨリ圖ノ所エ出ス

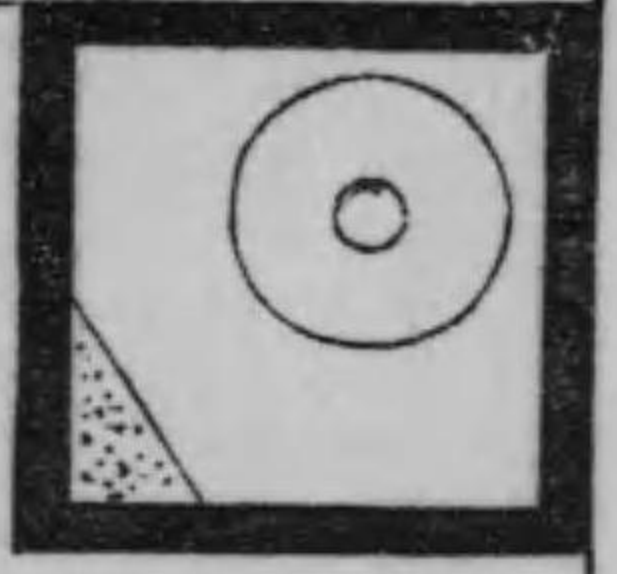


茶道口

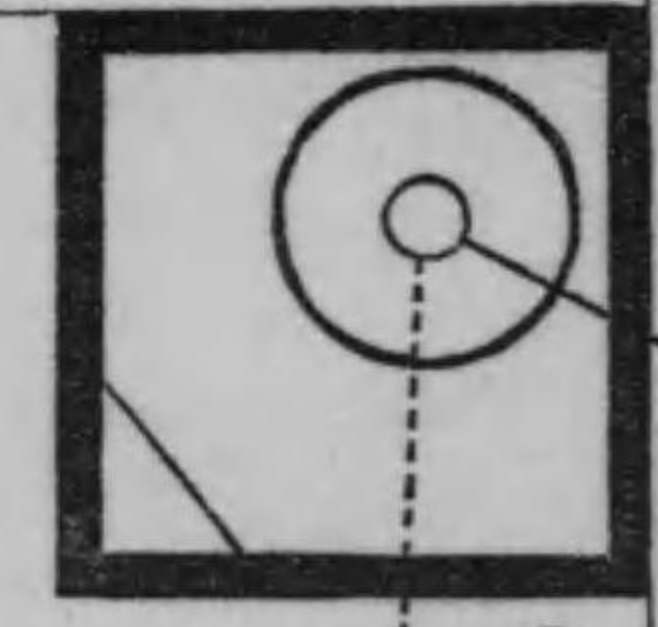


碗及置右、手茶入右ニテ客付ハ是
碗アシラヒ右ニテ置合建右ノ手ニテ
持出ル

ハコヒ
懐茶ノイ



九手前、通シテ柄抄始仕舞
九手ニテハリ外ヨリ引釜フ夕取
前抄九ニ持右ニテ蓋置炉前
エ直シ釜ノフ夕取置
仕舞モ比打返シニツカハ外
引ヘシ

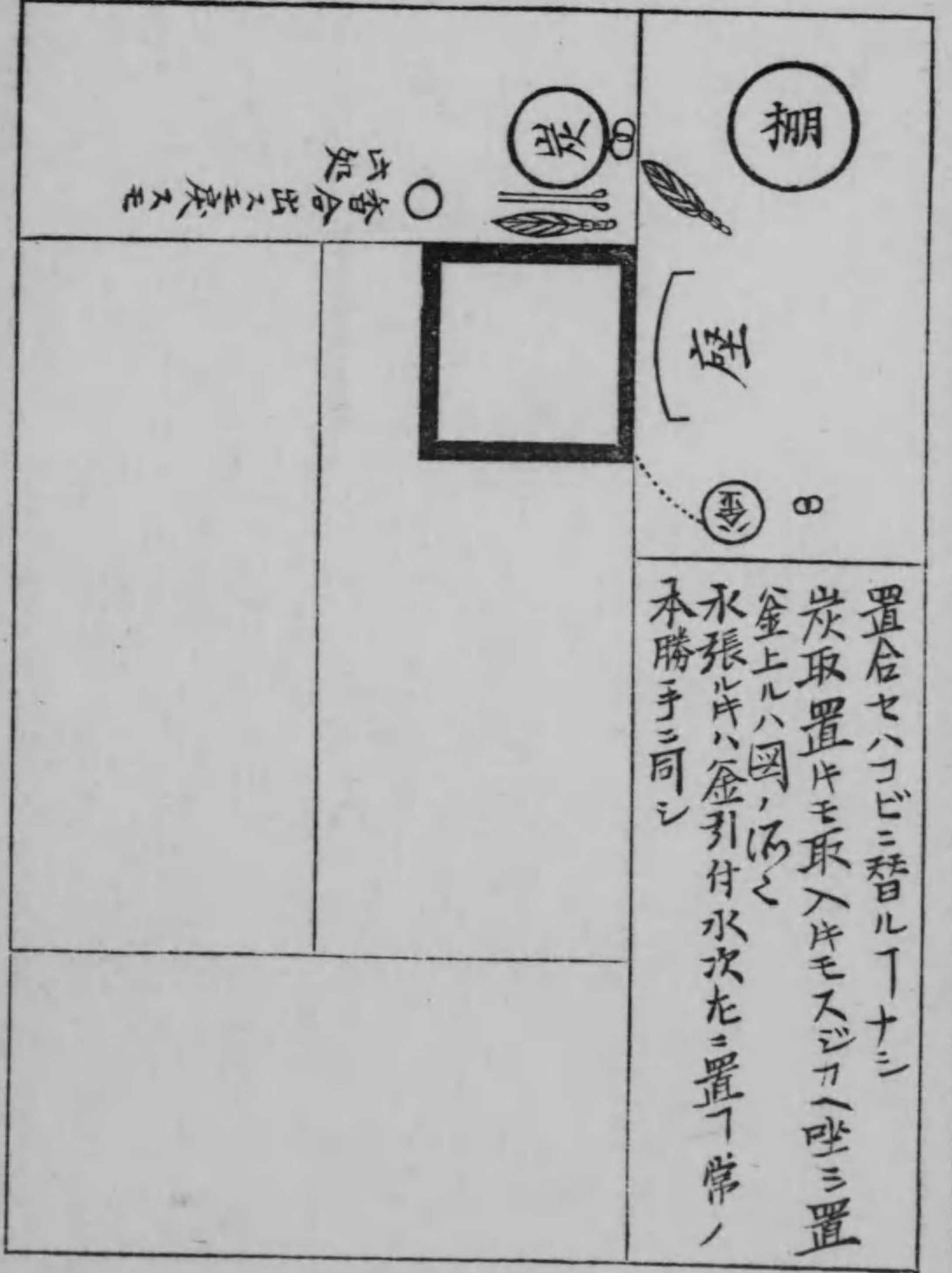


○釜ニカヒ抄逆手ナリ但シ炉
フテ真中
茶入蓋蓋茶 其外共前取
所望ノ三種出スモ戻スモカキ置
常ノ九ニ順ス

都テ
薄茶ニテモ同様仕舞舞ニ道具引時常ノ九手前
廻ル
西器心得ノ通り右ニテ茶蓋取テ取持右手兼持
抄フ夕置右建水たり但本手前ノ通持テ勝手ノ
帛紗最右ニ付ル

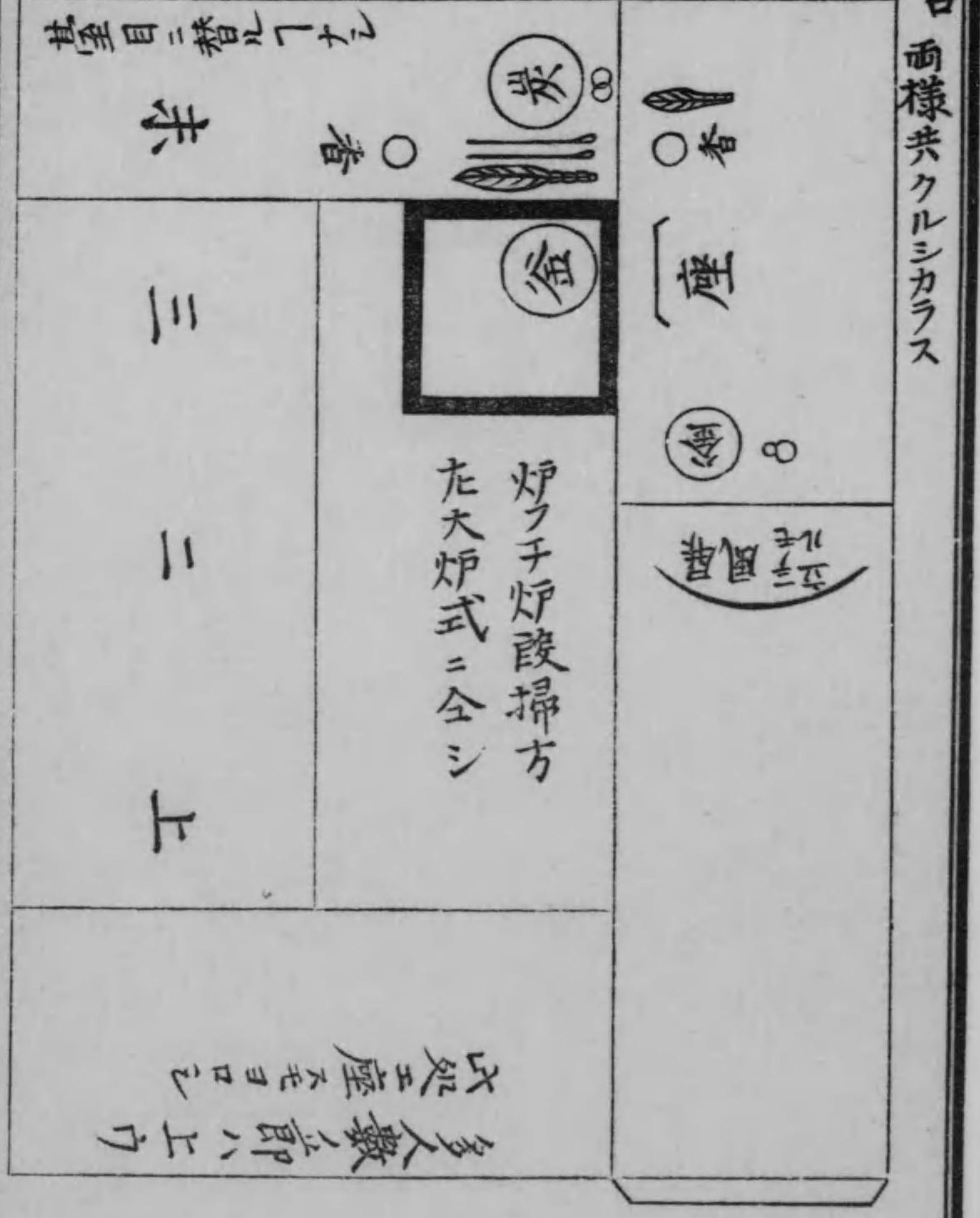
口道茶

棚物ニ炭



置合セハコビニ替ルナシ
炭取置片モ取入片モスジカ座ニ置
金上ルハ因ノ所ニ
水張片ハ金引付水次ニ置ナ常ノ
本勝手ニ同シ

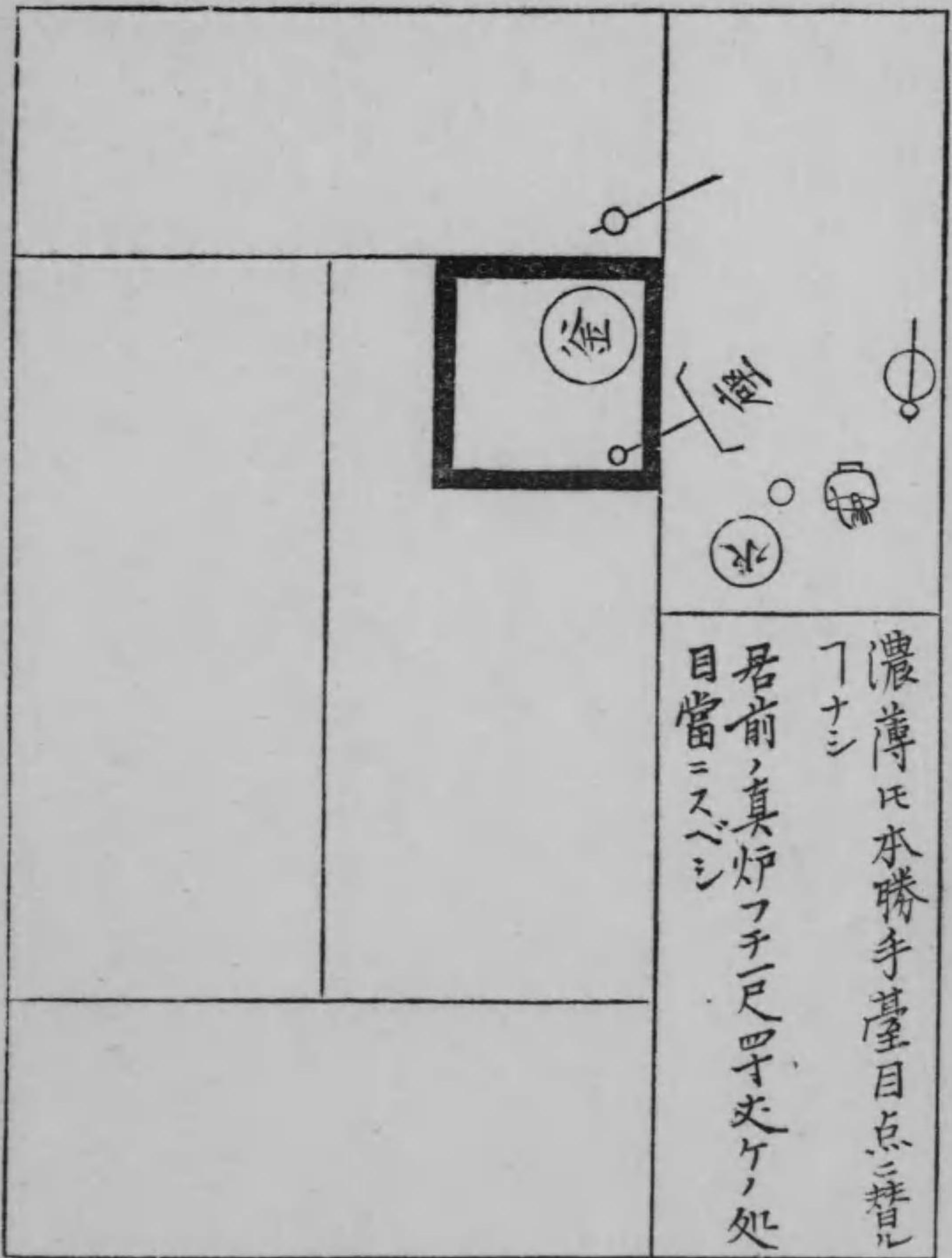
大炉ニ本勝手致メ片



炉フ子炉設掃方
大炉式ニ全シ

多人數ノ部ハ上ノ
炭ニ座ニモヨロシ

口
両様共クルミカラス



濃薄比本勝手臺目点ニ替ル
一ナシ
君前ノ真炉フチ一尺四寸丈ケノ処
目當ニスベシ

一 爐中 初炭

初め盛灰致し置灰杓さし込立置こと常の通炭取持出し炭手前致こと平常手順に替ることなし但し灰は此盛炭を蒔くべし

一 客方中立跡にて莊り炭のこと第一圖の通

後炭半田持出し此莊りある炭を致すこと手順第三圖を以跡に記しある

一 臨時又は盛灰無之節も薄点前等の節も

第二圖の通半田に灰も炭も組て持出致すべし但し灰を蒔とき半田をまはし灰まき仕舞て元の如く半田まはし炭致すこと

一 大爐に限り香合炭取より初め出す所も羽子火箸の向也

客所望にて出すも戻るも此所にて只折返す計りなり

一 棚有無に不拘初炭は羽子火箸とも爐邊に取出すべし

第一 莊り炭

輪ぞう
ぎつちよ
全わり管
全わり
五つ
枝三本

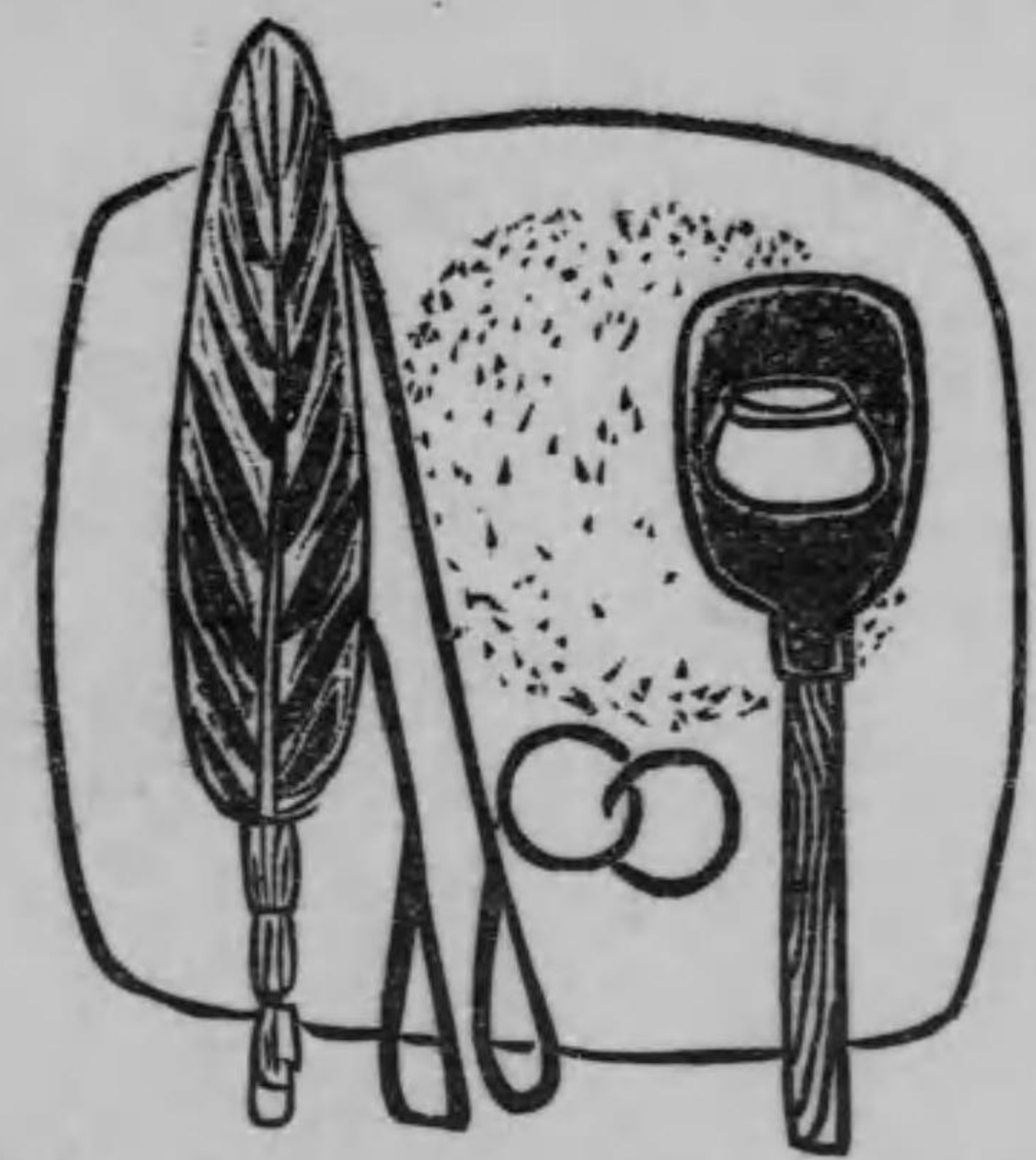


第二 臨時等

半田
炮六



第三 後炭半田方六



一如圖して持出爐の右に置(羽子
おろし香合出し釜の蓋をメの掛釜
敷出し常法の通釜引上げ置羽を遣
い下火直し半田を爐の方に引寄灰
を蒔べし半田をあしらひ羽を遣い
香をたくこと火箸持て莊り炭を次
也但し(第一に枝炭管炭一とはさ
みに入次にぎつちよを不殘入輪と
うを留炭に入る方風情あるべし)
火箸 半田の端に置半田を爐の左
に直し灰匙を取灰をすくひ(莊り
炭とりのけたる跡に)灰残らず盛
入れ灰杓を灰に差入立置べし半田
を右の坐ぬもどし羽を遣い半田に
置香合入半田其儘釜引付水次ぎ持
出釜の水張る等常法に替ることな
し(餘は功者あるべし)

玄々齋好

仙遊の手續

元本の儘

棚物は何にても用ひられ候得共可成二重棚が
宜敷候事

一主客五名にして内三名客に成二名は東半東
となり各々役割を取極め東と半東兩人にて
道具のこしらゑをす第一に棚物でなくて
は出来ぬものなり席には花入を置小棚物水
指と茶入棗と莊り置夫れより花臺(花五種か
七種にて)
水次茶(茶)炭斗灰器香盆(銀葉二枚)茶碗建水菓子器折
巾小刀

居は菓子器の向に置水次もこしらゑ置事道
 具こしらゑ出来れば客方席入す次香に成人
 は志野袋を男子なれば左の袖に入る東半東
 勝手にて一禮東より順に向ひ付に出半東は
 勝手に入東は亭主疊に着座半東花臺持出花
 生の左の方に置いて直に東の次に着座す東上
 客を一禮上客次禮し花をいけて座に歸る二
 客次禮し亦上客をあげ禮して花生けに行濟
 て亦三客同様次禮あげ禮す東はあげ禮をし
 て次禮をする濟て半東あげ禮斗花いけに行

て生けをはると上客より御水をと挨拶請て
 水を差して花臺持て歸る炭斗持出風呂前に着
 座して羽箒をろして釜に鉋かけ釜敷出し釜
 上げる事は炭所望と同じ半東勝手に入方六
 持出假座に置勝手に引く勝手口に待居る東
 より炭の人に一禮して炭の人手前に行方六
 持て風呂前に着座炭直し灰まきしてはきて
 方六持後を戻り假座に置元の座に歸る半東
 炭の人に一禮して出方六持入亦出て居前に
 着す其時炭の人より御直しをと云一禮して

客付を向ひて釜引付る此時上客より御炭拜見と言請て正面に向ひて立勝手に歸る水次前に置き待居る上客より順々東まで拜見済て半東水次持出て釜に水差事通例済て釜かけて炭斗引香盆上客の前に持行東の次の座に着座東より香の人に挨拶本香次香とも同時に一禮有る亦本香の人は次香の人に次禮して香を焚くは且座の通也次香も且座に同じ客より次禮して香を聞き東は香元へ挨拶する事二香の時でも宜し上客を香爐戻本器にして

銀葉片付二客を送る二客手順且座の次香と同じ順々聞きて二客に歸る二客本聞きして下に置く此時東より前香御焚添被下と一禮す二客前香と焚合す香盆前向とくり少し向に置半東出て香盆をば棚前に持行香爐棚の上に乗せて香盆少し左の方によせ茶入水指の前に莊り付香盆持勝手に入茶碗持出茶入と置合し勝手に入建水假座に置東の次に着座する東直に立て假座の建水持出杓引一禮濃茶通茶を點じ茶碗常座に出し直に立ちて

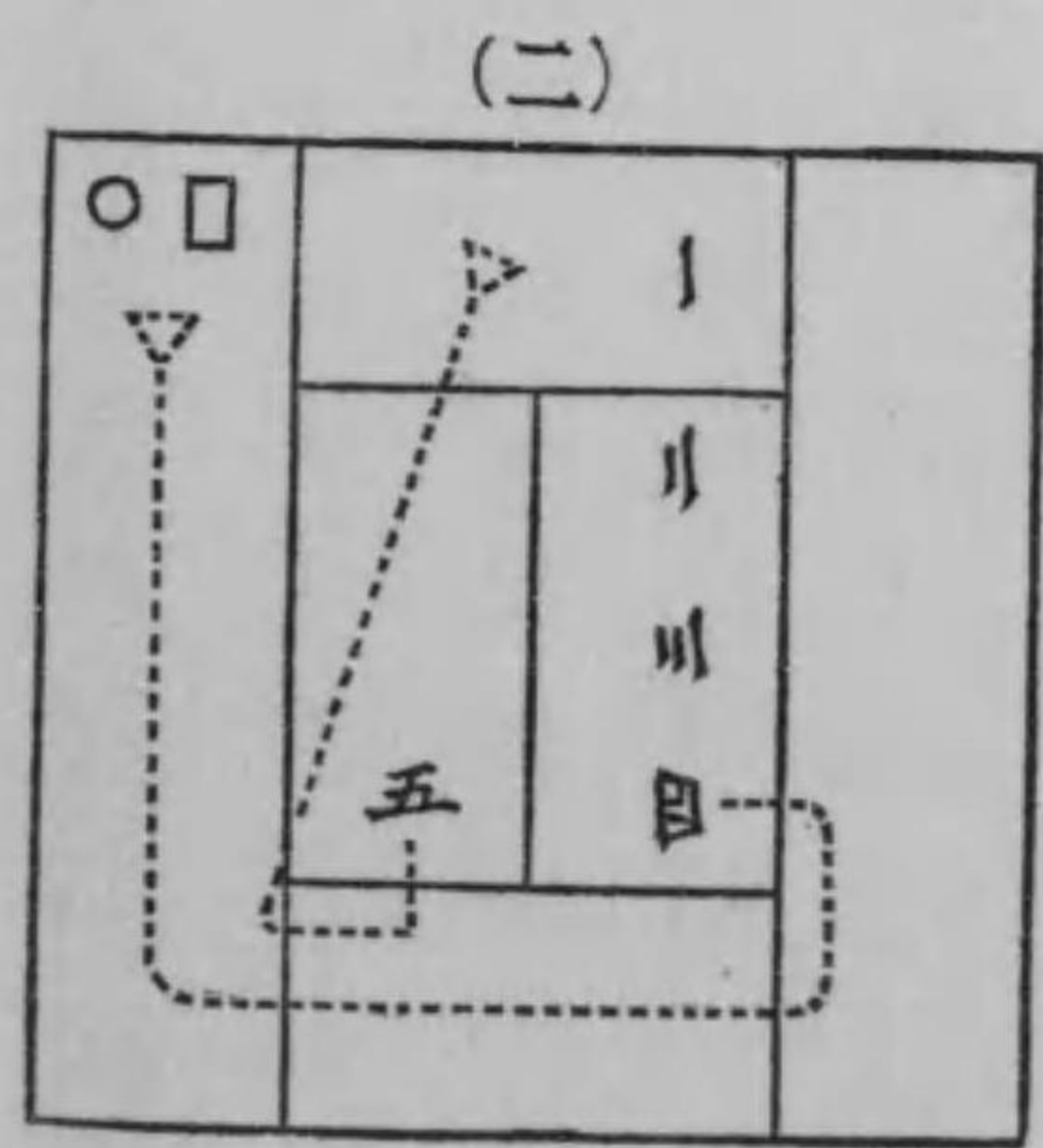
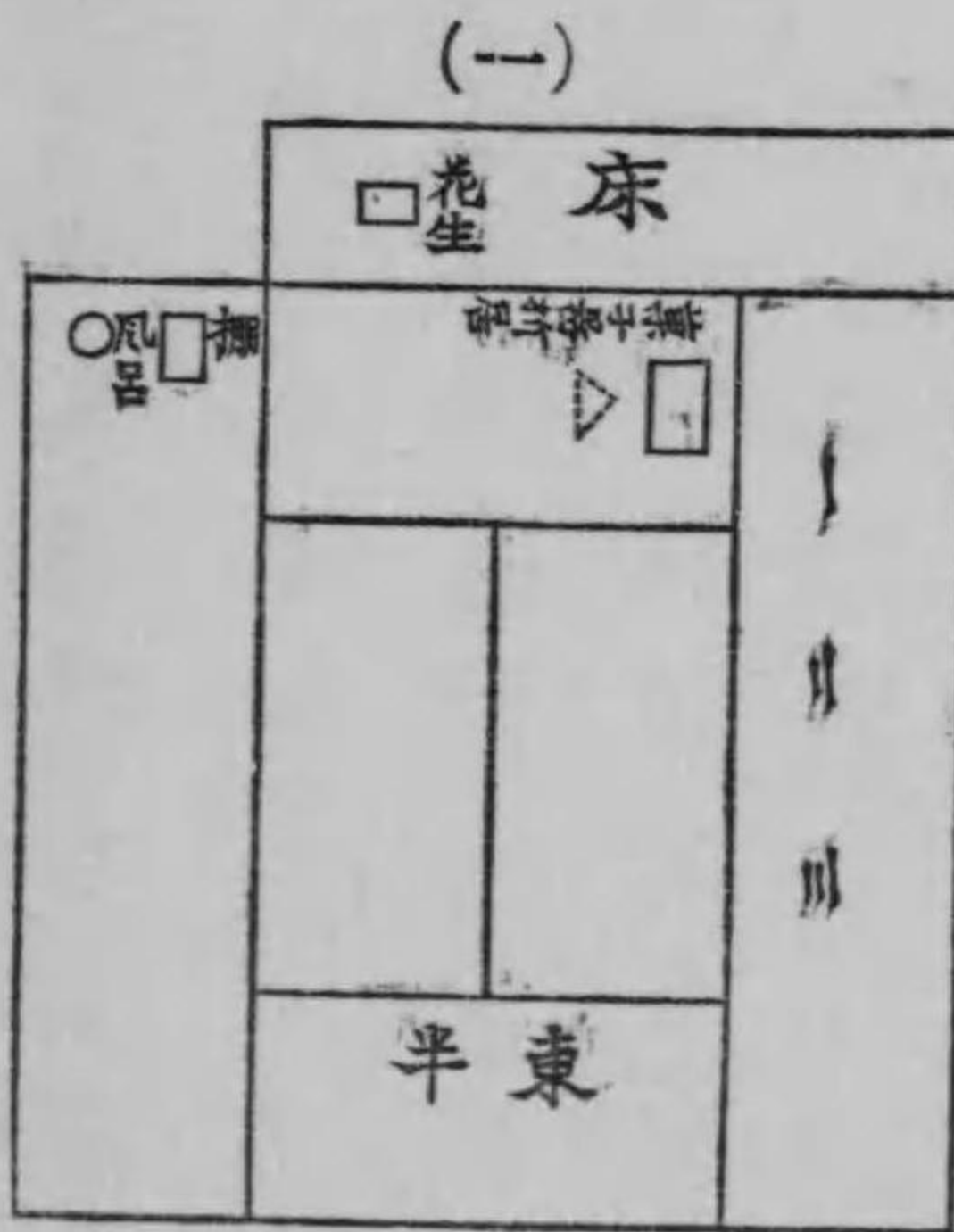
元の座に歸る上客出て茶碗持座に直り總禮して吞廻す事通例濃茶に同じ半東の吞切ると上客より御茶碗拜見と言半東請て茶碗上客の前に持行此あとを東通りて居前に戻り水一杓さして客付に向ひ御薄は花月と言挨拶請て客方帛紗腰に付る東女子なれば此時ふくさ付て待居る茶碗返らば直に持ちひざ前に置總禮半東勝手に入菓子器持出上客の前に置上客菓子器持ち立ちて四疊半にすむ東も四客目の座に半東も亭主座に着座す

上客も半東より一禮請て夫れより次禮して札を取て廻す亦菓子器も取て廻す末客迄廻る末客は折居左の方五つ目位に假置して菓子取菓子たべをわれば札を名乗る尤も花計り花月の如く替札取て上客も折居戻す菓子器も戻す上客向疊に假置花の人手前に行其後の座も亭主疊に居る半東着座す手前に行たる人棚より棗をろし帛紗にて拭建水の向に置茶碗を一度あらひふきて薄茶を點し花月の時と同じく上客より茶杓取たるときに

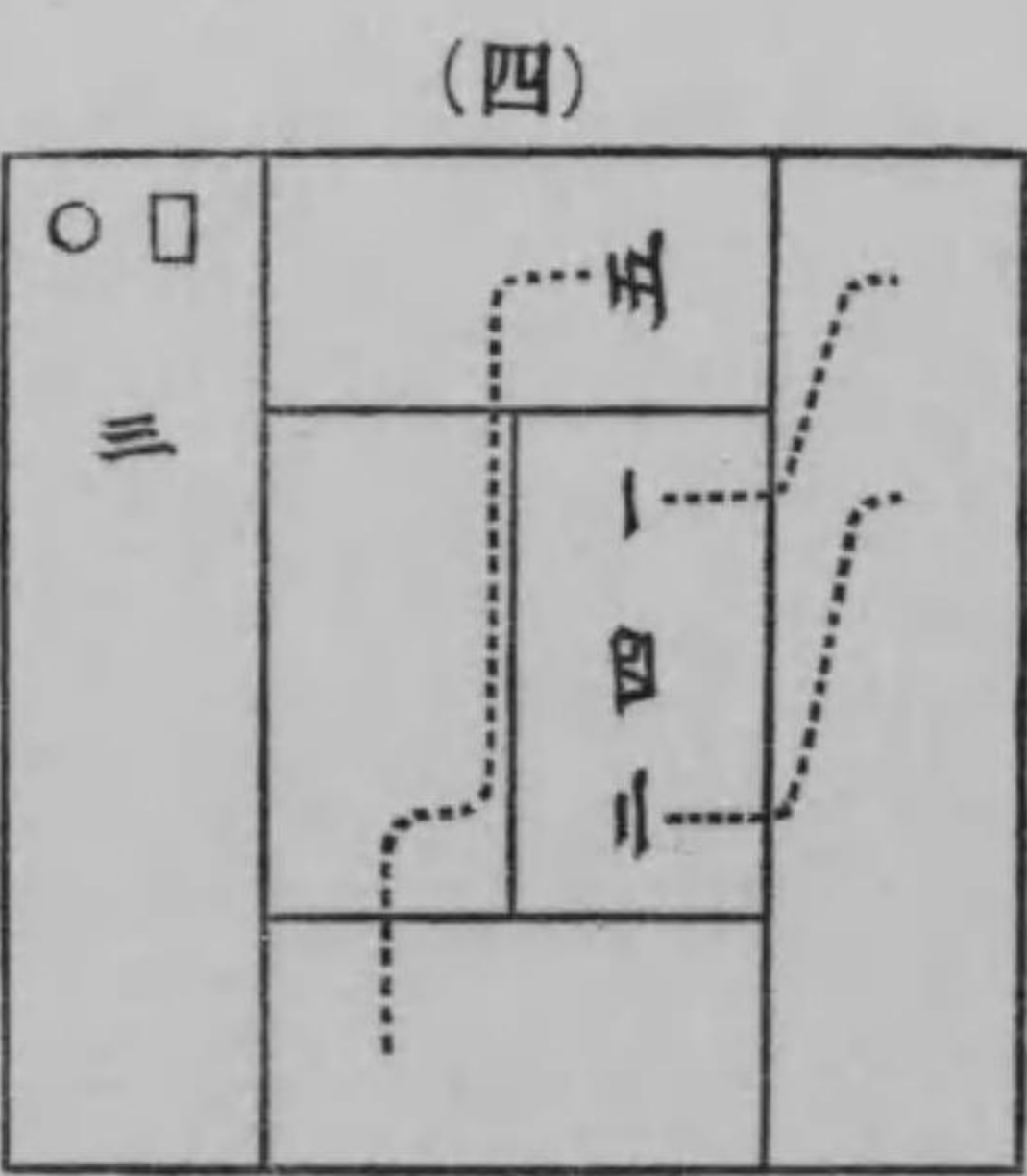
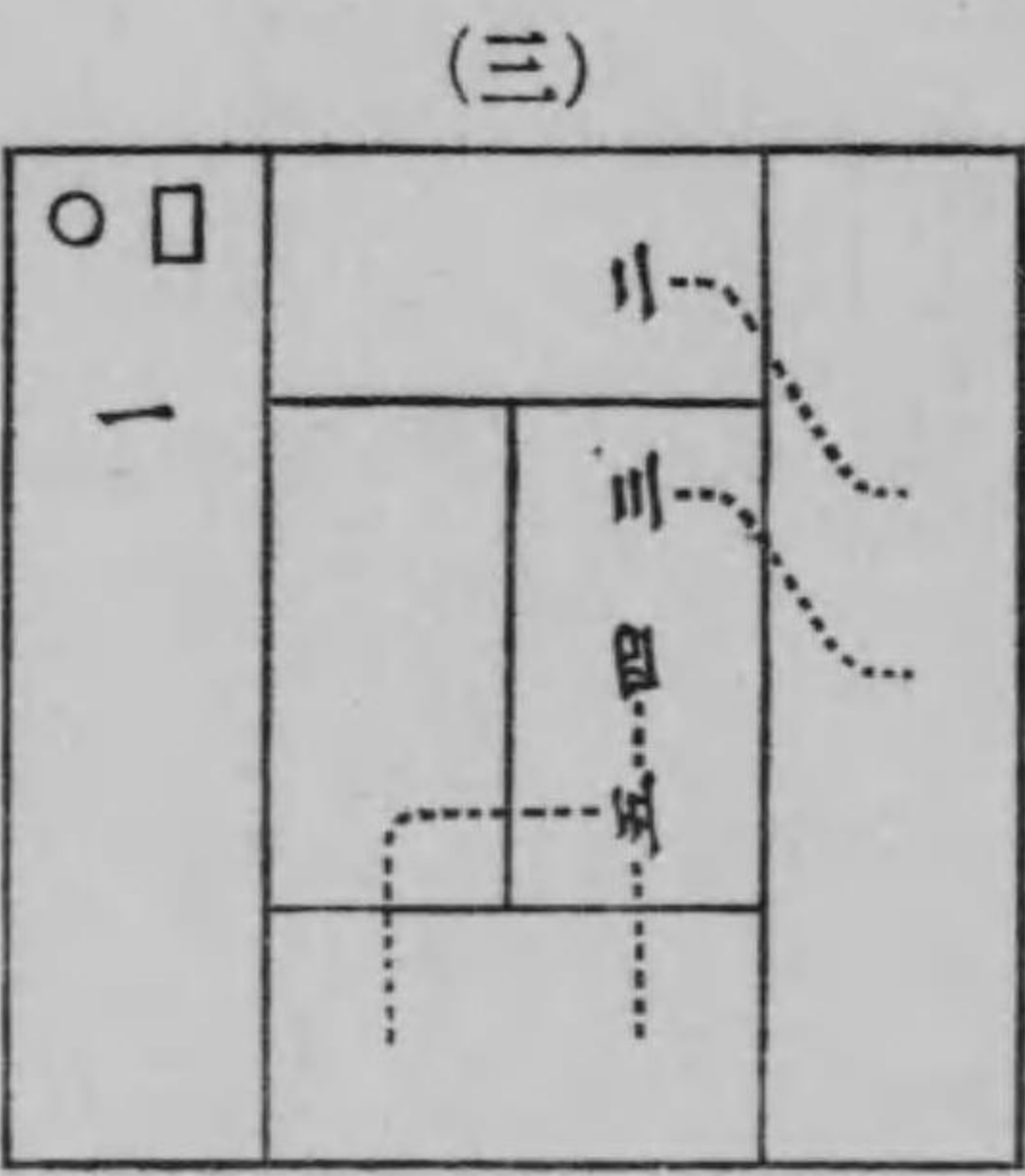
折居廻す茶點出れば尤も月花と札を名乗る
月に當りたる人は茶碗を取込事花月に同じ
此度花の人は手前に行茶杓を水指に乗茶入
棚に上げ棗左の手にて水指の前に置茶杓乗
て夫れより茶碗取込茶點出す事三度程廻る
時折居角かけて廻す此時亭主の方を末より
折居廻し置札を見て月計名乗たれば仕舞な
る事手前の入札を持客付に向ひ折居を取札
を入れ元の所に角懸けて返す事末客取て各
々札を入れ上客迄返る上客菓子器にのせて

若初の上客の人二三の座にあれば夫れ迄廻
し置く亦手前に有時は二客迄廻す點前に居
人茶碗戻らば直に取入總禮其時座がわり次
に認む順に片付て客より三種拜見通例且座
と同じ様に出し杓莊り茶碗三手によけ棗と
莊置建水引客なれば假座半東なれば勝手に
直と返る茶碗引水さしに水を指勝手口に控
居ると上客より三器拜見済て返る上客菓子
器前向に直し置東上客の前に行く半東は三
器を引きに出一時に總禮して東の方さきに

勝手に入引續き半東も入る兩人一禮して兩人一所に送り禮に出る半東假座によけ其間に東は勝手に入半東つゞきて勝手に入る客帛紗仕舞一禮して順に勝手に入事且座と同じ

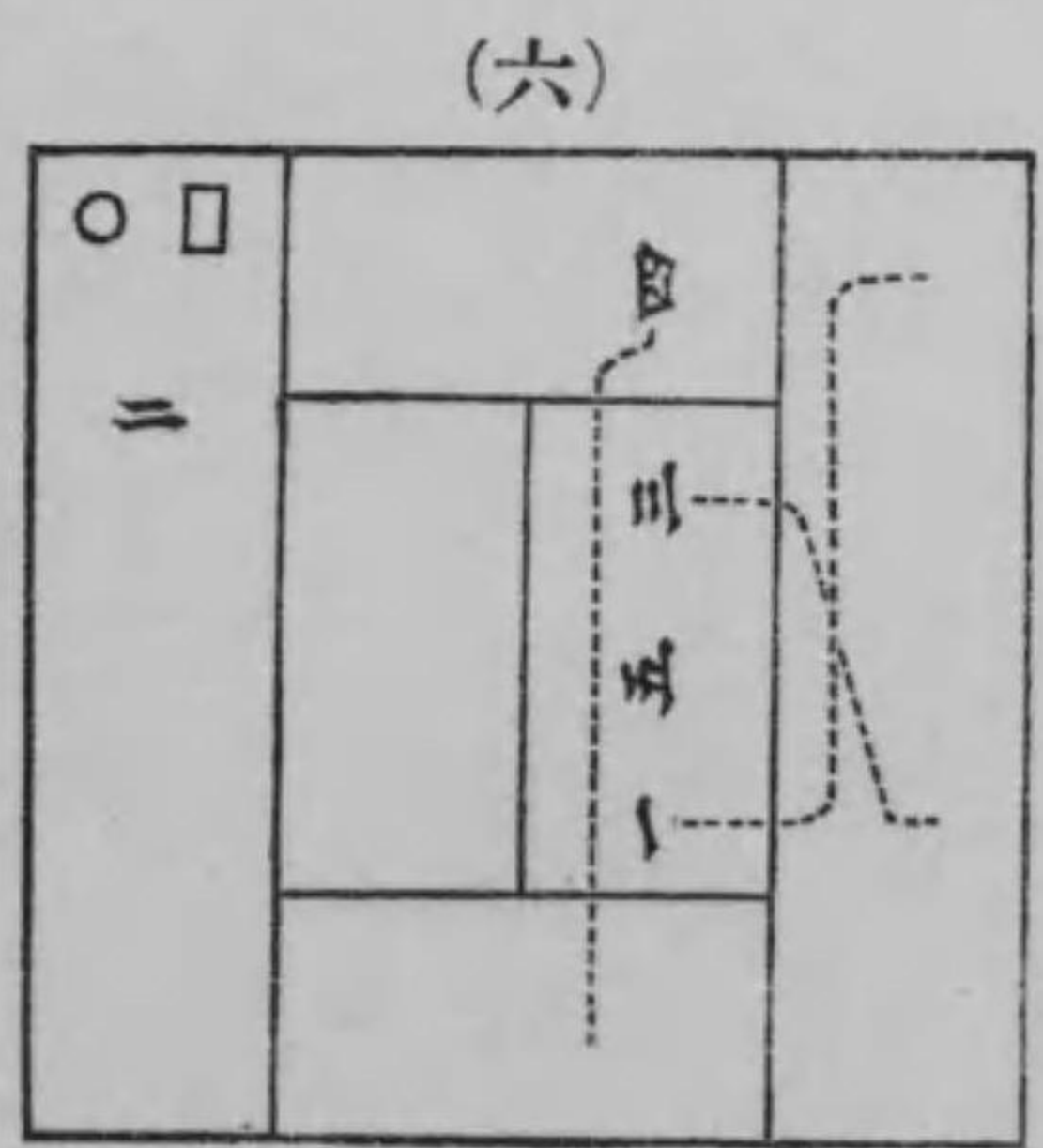
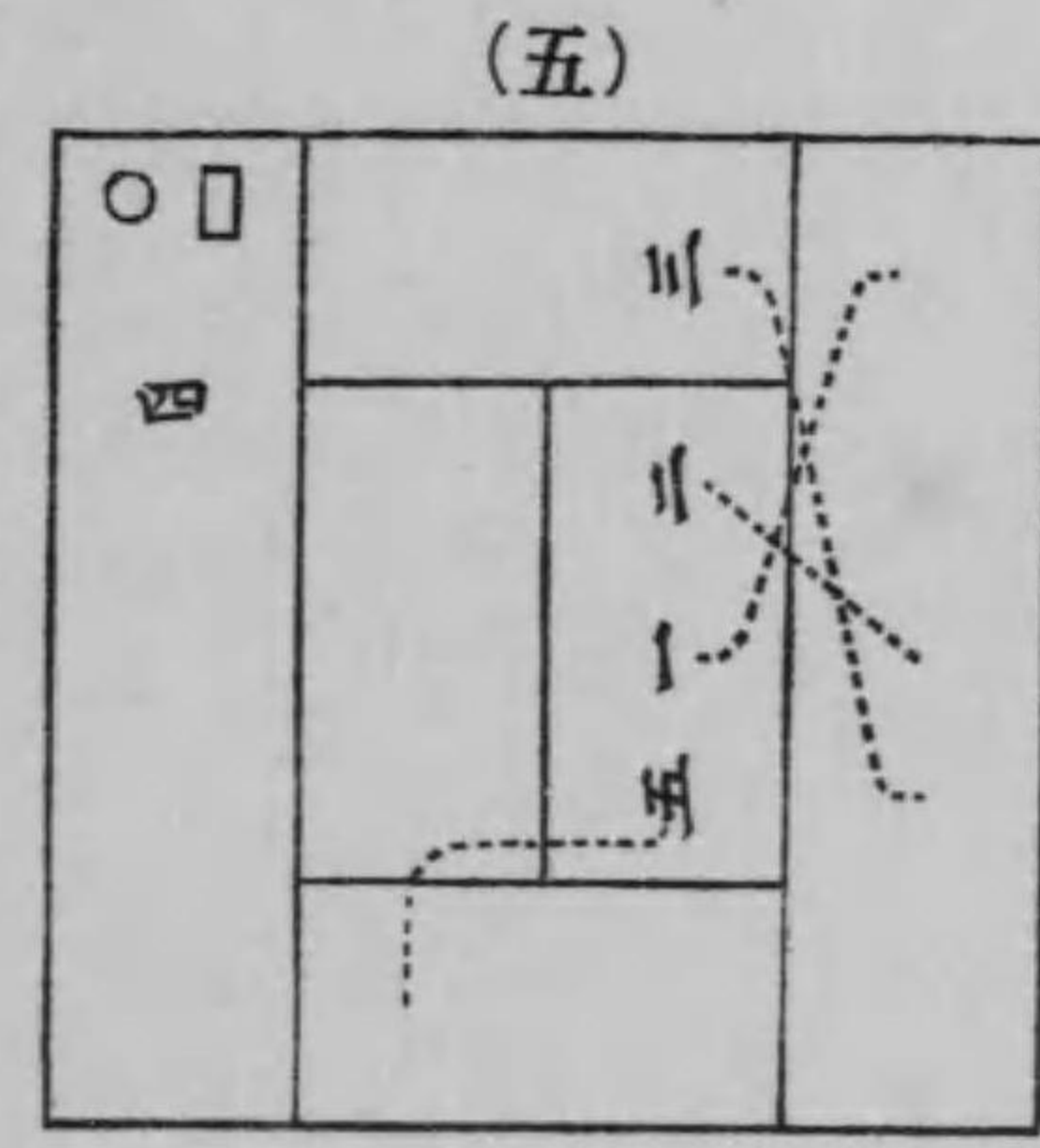


一初の薄茶に成前に菓子器持出でたる時圖の如く四疊半にすゝむ時下の圖の如くはこび着座する



仕舞の時三の寫の如く有時は菓子器二客持立ちて後に寄上客元の座に來らば上客に返す三

器も二客取込上客に送る
 四の如くなる時は菓子器二迄送る三器上客取
 入れる



五の如く成時は菓子器三客迄送る六の如き時
 は末迄送三器は上客取入れる事座替りは爐風

呂同様なり

爐の手續きは

風呂と替る事なきも炭所望の時亭主灰まきはきて灰器取込み初はく時爐邊迄すゝむ東迄拜見する○炭の人爐前に行羽箒出し定座に置炭つぎたるのちはきて歸る客も炭濟ば元座ゑかゑる事半東出て挨拶釜引付け風呂同様其外は濃茶中蓋中仕舞有茶點出し直に中仕舞して東は御相伴に行上客ゑ半東茶碗持行其後を通りて點前に戻る中仕舞解き釜

道
千宗室 共編 一
に水さして正面に向ひ花月の禮をする此邊
違ひ外替る事なし

献茶並供茶之式

一 始め長盆の上に筌置をのせて臺子正面に座
し前に置筌置を取右の手を添左の方に假置
なして火箸をぬき臺子左の方に置天井の茶
入を長盆の上に置袋をはづす事通例の如く
扱袋は天井左の角に置懐中より古帛紗を取
出水指の前に敷腰の帛紗を艸に捌き茶入を
拭事如例茶入古帛紗の上に置帛紗腰にはさ
み両手にて天井の天目を取をろし盆中に置

腰の帛紗を艸々に捌き茶杓を拭茶入の上に
流し掛置帛紗臺子天井右の方に假置なして
建水取出し蓋置を出杓立の前に置帛紗にて
釜の蓋を明帛紗元の所に置天目の蓋を明臺
子天井前の方に假置して杓を取湯を一杓天
目に入れ杓釜に掛小すゝぎして建水ゑなが
し亦天目臺にのせ置杓にて湯を天目に入杓
釜に掛置茶釜を天目に入天目取上臺子天井
に假置して臺子上の帛紗を取艸にたゝみ臺
を掛事例の通臺下に置帛紗天井元の所に置

天目両手にて取上左の手のひらにて茶釜と
うしなして茶釜は釜置の向に置湯を捨て茶
巾にて拭茶巾天目に入たる儘臺に置茶巾釜
置に戻左の方を一ひざ向き懐中のふくめん
取出し掛置居前に廻茶杓取茶入もとり茶を
入れ茶入元に戻し茶をさばき茶杓元に戻し
水指の蓋を明一杓水を加ゑ湯を天目に入茶
を點し釜元に戻し天目の蓋しめ亦一ひざ左
に向きふくめん取懐中して臺取上げ前向に
廻し神前亦是佛前に持行居前に歸り一禮直

に筌置を長盆の真中に置茶巾を筌の蓋にのせ杓取木を筌置に入杓釜に戻茶筌を取筌すすぎして茶筌元の所を戻し水をこぼし茶巾を入長盆の上に置茶筌も入茶杓を取臺子の上の帛紗をさばき茶杓を拭筌置に掛帛紗腰に付筌置を両手にて取上左の方を假置して臺子前の茶入を取長盆に置古帛紗懐中して茶入の袋を取茶入の左の方を置長盆臺子に上置き杓取釜に水をさし杓立に戻し釜の蓋しめ水指の蓋をしめ火箸を杓立にさし蓋置

直して筌置及建水持引亦出て水指を水をさし建水も莊り茶道口に座し一禮ある事

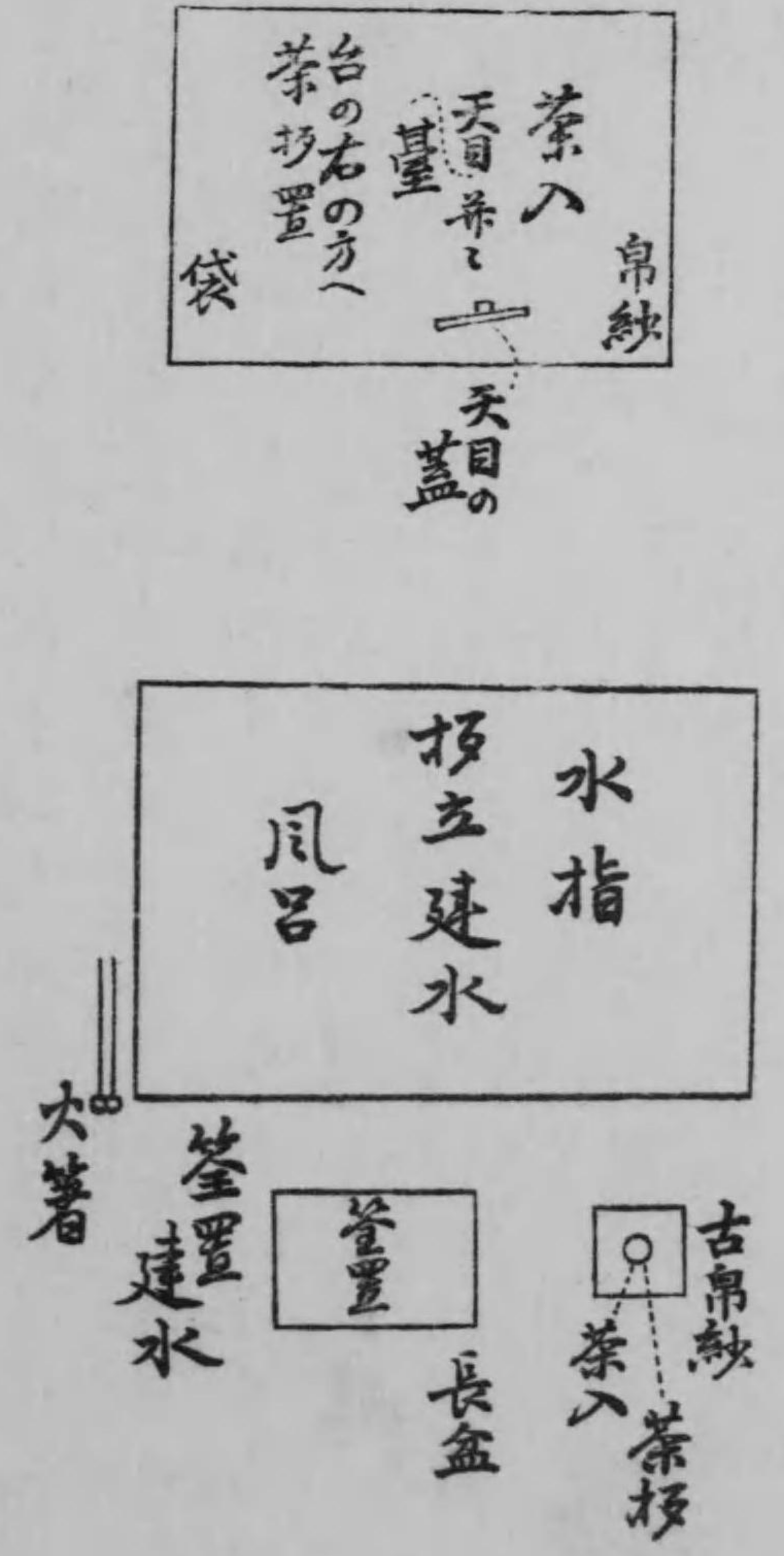
小棚物にて略式献茶

一始め棚前に濃茶器莊り附置天目に茶巾茶筌等并茶杓も掛置持出棚前に着座茶入右に寄天目臺とも置合勝手に入建水持出座に着杓蓋置に引總禮あり天目臺の儘前に置茶入も取込袋を解事通例の通り袋棚に上置帛紗四方に捌き茶入拭事例之如し定座に置茶杓も

拭茶入に掛置茶筌出し茶巾水指蓋に上置杓
を取釜の蓋を明湯を汲天目に入小すゝぎし
て建水ゑこぼし臺に置亦一杓湯を天目に入
杓釜を戻し茶筌取天目に入置て風呂火窓の
前に古帛紗を敷假置をなして帛紗艸にて臺
を拭ひ帛紗腰に付て天目丈け取上筌とうじ
して天目の湯を捨茶巾にて拭茶巾は釜の蓋
の上に戻しふくめんをして茶杓取茶入取茶
を天目に入れ茶入元に戻茶杓も戻水指の蓋
を明水一杓加ゑ茶を點じ其儘持行座に歸り

一禮ふくめんはづし風呂前の古帛紗懷中し
て替茶碗を前に置き湯を入筌すゝぎして茶
巾にて拭茶を點ず幾度にても同様是は御相
伴の人々ゑ拜服致させる扱なり以下普通の
濃茶と替りなし

初長盆持出たる圖



明治三十六年十二月三十日初版
 全 三十七年一月三日發行
 全 三十七年八月十五日再版發行
 全 四十二年六月十日三版發行
 大正二年十月十五日四版發行

著者 京都市上京區小川圓寺之内上ル本法寺前町五番戸
 兼 行作 人 千 宗 室

印刷者 井 手 正 三

印刷所 合資商報會社

京都市上京區柳馬場通二條下ル等持寺町十番戸

茶 (裏付)

終

